

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和4年
10月

秋気が肌にしみる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第55回配信です！ どうぞお楽しみください。

【 診療科紹介 脳神経内科 】

学生の皆さん、こんにちは。今回は脳神経内科の紹介をさせていただきます。脳神経内科については皆さんどのような印象をお持ちでしょうか？ 難しい分野と考えるおられる方が多いかもしれませんし、古い先生の中には、「脳神経内科は治らない、治せない、わからないと言う3ナイ徴候の科なのでやめておけ」とおっしゃる方もいるかもしれません。しかし、ここ10年-20年で大きな変貌を遂げている科の一つでもあります。

具体的には、当科では全国有数の脳卒中診療を行なっているということです。脳卒中の治療は年々進歩しておりますが、私たちの医局では主任教授の藤本先生を中心として、非常にアクティブな脳卒中の急性期治療が行われています。脳卒中医療の総本山といえは国立循環器病センターでしょうが、そこに負けず劣らぬ検査や治療が行われているものと考えております。

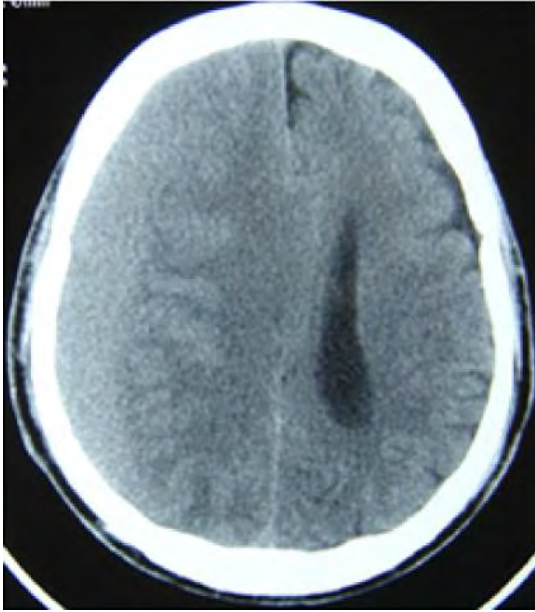
また、脳神経内科の診療は、変性疾患、炎症性疾患、筋疾患、末梢神経疾患、脊椎脊髄疾患など広範囲にわたることも特徴の一つです。特に最近では、多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症などに対して様々な生物学的製剤を用いて治療ができる時代に入っておりまして、20年前と比べると格段に治療成績が上がっている分野です。

今後どの科を選ぶか迷っている学生さんも多いかもしれませんが、脳は最後の未開拓ゾーンとも言われており、これから新たな発見が数多く期待できる分野であります。急性期医療が好きな人、神経難病に興味がある人、研究もしてみたい人、一攫千金で脳のすごい発見を狙っている人、など色々な若い先生をお持ちしています。見学も随時可能です。皆さんのことを心からお待ち申し上げております。



【医師国家試験予想問題】

1. 78歳の男性。これまでは特に既往歴もなく健康であった。3週間前に転倒して額にコブができたことがある。2週間ほど前から次第に歩き方が不安定になり、ぼんやりしていることが多くなったため受診した。頭部単純CTを以下に示す。本症例の診断は次のうちどれか。

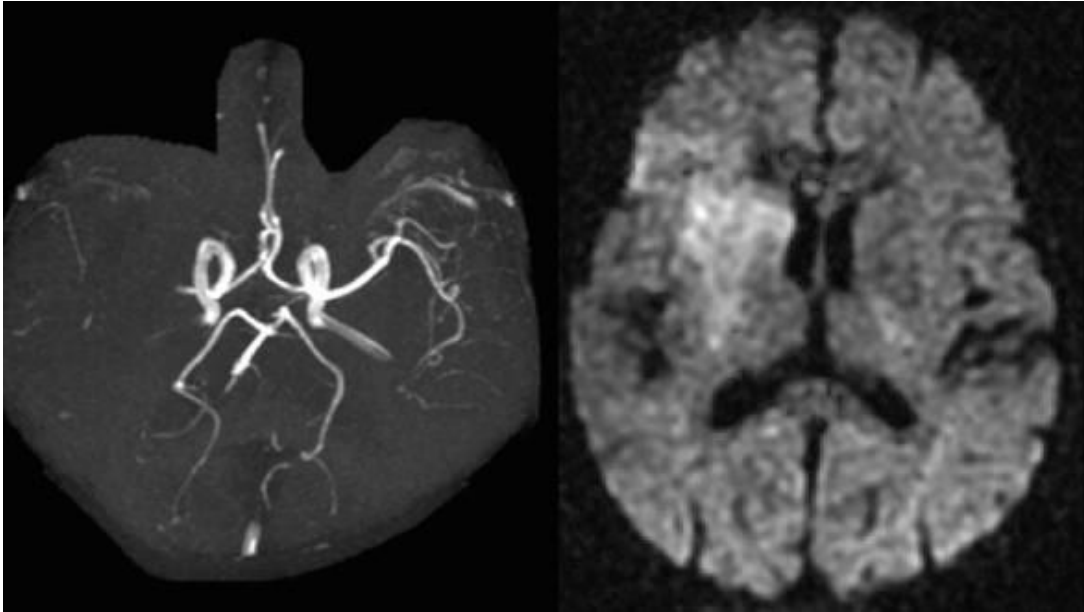


- a. 視床出血
- b. クモ膜下出血
- c. 心原性脳塞栓症
- d. 慢性硬膜下血腫
- e. アテローム血栓性脳梗塞

解答 d

頭部CTの読影力を問う問題です。硬膜外の血腫ではレンズ状の形状、硬膜下の血腫では三日月状の形状をしていること、血腫の色調は急性の出血であれば高吸収域を呈していますが、次第に等吸収域、さらには低吸収域になってきます。本症例では硬膜下血腫の色調が等吸収域に近いいため、目が慣れていない学生さんは、ともすると脳浮腫のように見えてしまうかもしれませんので注意する必要があります。

2. 67歳の男性。朝 6:30 にはいつも通りであったことが家族に確認されている。午前 8:30 にベッドから起き上がれないことを発見されて、救急要請された。病院到着は午前 9:00 である。神経所見としては左片麻痺を認め、モニター上、心房細動を認めた。MRA と拡散強調画像を以下に示す。



本症例は発症後 4.5 時間以内であり、rt-PA 療法を検討したいが、以下のうちのどの項目があれば rt-PA 適応外となるか？

- a. 1 日前の一過性脳虚血発作 (TIA) 症状
- b. 2 か月前の脳梗塞の既往
- c. 急性大動脈解離の合併
- d. 胸部大動脈瘤の診断で通院中
- e. 未破裂脳動脈瘤の診断で通院中

解答 c

超急性期脳梗塞の血栓溶解療法 (rt-PA 療法) の禁忌基準を問う問題です。rt-PA 療法は脳梗塞急性期の最も重要な治療法といっても過言ではありません。どの症例にも使用できるわけではなく、使い方を間違えると大出血などを来す恐れもありますので、適応外項目をしっかりと覚えておく必要があります。